

特集 全国邦楽合奏フェス in 田辺

2021（令和3）年11月6日（土）7日（日）、和歌山県田辺市で「紀の国和歌山文化祭」（第36回国民文化祭・わかやま2021等）の邦楽分野行事として「全国邦楽合奏フェスティバル in 田辺（以下フェス）」（主催団体：（特非）全国邦楽合奏協会）が開催されました。

フェスは、11月6日の2021国際尺八コンクール、

特別連携事業の尺八スペシャルライブ、そして7日の全国邦楽合奏コンサートの三つのイベントからなります。関連して、ロビーでは「知れば楽しい邦楽コーナー」など、充実した展示も行われ、2日でコロナ流行下にも関わらず850名の来場者がありました。

（関連記事2～5面）

「夏の一日」二年の時を経て披露

2019年8月25日、川崎市高津区の洗足学園音楽大学で「和楽器アンサンブルを楽しむ講習会」（全奏協主催）が開催されました。講習曲は「夏の一日」（長澤勝俊作曲 指導・指揮 松尾祐孝）でした。

この曲は2020年には同大邦楽研究所定期演奏会で、3月にはワールド・ウッド・

デー2020東京～ウッド・レガシー～木の総合文化展「木の音楽祭」（文京シビックホール）で披露する予定でしたが、世界的なコロナの流行で演奏の機会を失っていました。

今回の「全国邦楽合奏コンサート」で二年の時を経て和歌山県田辺市の皆さんの前で披露できました。（T）



二年越しで披露された合同曲「夏の一日」（長澤勝俊作曲 指揮 松尾祐孝）11月7日和歌山県田辺市紀南文化センター大ホール

ゆかりの地で「新娘道成寺」を聴く

紀南地方は邦楽ゆかりの芸能の宝庫です。田辺市に隣接する日高川町には、安珍・清姫の物語で有名な道成寺があります。記者はフェスに先立ち道成寺で特別公開されていた「釣り鐘」を見学する機会を得ました。

今回、スペシャルプログラムとして「新娘道成寺」を演奏した藤本昭子（三弦・唄）、

岡村慎太郎（箏）、善養寺恵介（尺八）は、地歌界で最高の奏者と言われている。

物語をイメージしつつ贅沢な時間を過ごすことができました。（T）



▲道成寺で特別公開された釣り鐘（11月5日撮影）



委嘱作品の初演も

11月7日、全国邦楽合奏コンサートのオープニングで作曲家の高橋久美子氏へ委嘱した「その道の先に～尺八独奏のための～」と題する尺八独奏曲が初演されました。

演奏者は和歌山県出身の新進気鋭の尺八奏者、辻本好美氏。普化尺八発祥の地、由良町興国寺を擁する和歌山県で開催される国民文化祭にふさわしい企画でした。（T）

▲委嘱初演の尺八独奏曲を演奏する辻本好美氏

▶ 新娘道成寺の演奏
（紀南文化センター大ホール 十一月七日）



主な記事

- 2～4面…全国邦楽合奏コンサート関連
- 3面…「夕顔」遠隔講習の成果をフェスで披露
…「邦楽 Music Aid『光咲む刻』を演奏する会」
- 4面…尺八スペシャルライブ
- 5面…2021国際尺八コンクール in 田辺
- 6面…新理事紹介

2022（令和4）年度 総会告知
開催日：2022年6月12日（日）
開催時刻・場所・形式など詳細は
ホームページでお知らせします。
全奏協のホームページQRコード→



▲2021国際尺八コンクール in 田辺（11月5日 田辺市紀南文化センター小ホール）での記念写真（関連記事5面）

高校生合同演奏披露

桐蔭高校箏曲部、田辺高校邦楽部合同チームは「黒田節による幻想曲（沢井忠夫作曲）」を演奏しました。指導は和歌山県出身の西陽子（箏）、辻本好美（尺八）の両氏で本番の演奏にも加わりました。音楽は客席で聴

くより上手い人の横で聴くほうが、より上達すると言われます。生徒はスポンジのような吸収力でリハーサルから真剣に指導をうけていました。未来の邦楽演奏家が生まれることを期待しています。（T）



▲桐蔭高校箏曲部、田辺高校邦楽部による「黒田節による幻想曲（沢井忠夫作曲）」＝11月7日 紀南文化センター大ホールで

北海道縁の「龍星群」を北海道のチームが演奏

「龍星群」は百万部超えの人気漫画「この音とまれ！」の作中曲です。作者は北海道出身のアミュー氏。作中では、時瀬高校箏曲部員「鳳月さとわ」が箏を龍に見立て十七弦1面と十三弦5面が心一つに音を紡ぎ合い星群のごとく輝くという曲想で作曲した、という設定。今回演奏された曲はアミ

ュー氏の姉で箏演奏家の橋本みぎわ氏が作中曲をイメージし作曲した同名の曲です。

生涯学習音楽指導員とはかつて音楽検定を実施していた（公財）音楽文化創造が認定する資格です。この曲は、その指導員協議会の北海道支部の皆さんにより演奏されました。（T）



▲「龍星群（橋本みぎわ作曲）」を演奏する生涯学習音楽指導員協議会北海道支部の皆さん＝11月7日 紀南文化センター大ホールで

知れば楽しい邦楽コーナー



「邦楽雑学博士になってください」を副題に邦楽歴史図表、検校や虚無僧に変身できる顔出しボード、山崎直子宇宙飛行士が宇宙ステーションに持ち込んだ箏の姉妹箏、楽器素材、最近開発された良く鳴るピンク色の金属製長管尺八「AireedX」、中国で開発された尺八など手に触れられる展示も。もちろん、触った後の手の消毒は必須。着ぐるみの紀州犬「きいちゃん」（写真上方奥）も大人気だ。（T）

全国の仲間と大合奏実現！

田辺市実行委員 菊藤（真砂）良子

昨秋、和歌山県で「第36回国民文化祭・わかやま2021」が開催されました。田辺市では11月6日に国際尺八コンクール、7日に全国邦楽合奏コンサートが行われ、私たちも「わだつみ（野村正峰作曲）」で参加しました。私が代表を務める「菊宮会」、「菊佐和会」そして「箏の会薫風」の3社中で初めての合同演奏です。共演して下さる石垣清美先生には、事前にきめ細かいご指導を仰ぎ、当日には野村峰山先生もご出演いただき、総勢33名の大合奏が実現しました。（写真上）



私は、合同曲「送り囃子の夜（水川寿也作曲・指揮）」にも十七弦で参加しました。本番前日、他府県のメンバーと顔合わせをし、どきどきしながら水川寿也先生からレッスンを受けたのですが、ホールに尺八や横笛の音が響き渡り、得も言われぬ空気に包まれたひとときでした。次の日、先生の指揮にメンバーの心が集まり、曲の終盤では会場の皆様から手拍子を（写真下）、そして盛大な拍手を頂きました。この貴重な経験を胸に、これからも邦楽の道を歩んでいきたいと思います。

計画から本番まで、私たちを導いてくださった全奏協スタッフの皆様、展示コーナー企画の邦楽ジャーナル様他、各関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



▲リモート合奏サービス SYNCROOM で練習した「竹つれづれ」による「若竹の賦（長澤勝俊作曲）」演奏後の踊り「Make you Happy (NiziU)」 客席前方の高校生たちが最初に反応した

「遠隔合奏サービス」で練習し演奏披露

「竹つれづれ」は千葉を中心に首都圏で活動する尺八合奏団です。今回「若竹の賦（長澤勝俊作曲）」の演奏では和歌山、高知の尺八奏者も加えヤマハが開発した最大5拠点でリモート合奏ができるサービス「SYNCROOM」で演奏練習に取り組みフェスに臨みました。

Zoom などの遠隔会議

システムでは、音の遅れがあり会議に使えても楽器演奏には不向きです。SYNCROOM は映像を送ることはできませんが高速光回線を使えば、ほぼ音の遅延を気にせず合奏練習ができます。

コロナ以降もこのような練習形態はさらに広まると思われます。（T）

遠隔講習と前日講習で「夕顔」を披露

全国邦楽合奏コンサート

今回、三つの合同演奏曲の一つにフェスでは初めて古曲が採用されました。正確な楽譜のある現代曲と違い古曲は江戸時代以降、各流派に様々な手付があるため演奏会前に1回の講習で合奏し難い分野の曲です。

また、合同演奏曲は全国に参加者が分散し、さらにコロナ禍のため集合練習もままなりません。そこで、試みられたのがZoomによるリモート（遠隔）講習と現地での前日講習を組み合わせた発表の形です。

コロナ禍の昨今、パソコン、スマホなどを使ってフェスの合同曲「夕顔」も遠隔講習が出来るのではないかと考え実施しました。

今回、一講習を1.5～2時間という設定をしたので、効率的な生配信のために三弦の藤本昭子先生、箏の渡辺明子先生、そして尺八の善養寺恵介先生と事前に打ち合わせを行い、集中して学ぶべき課題を洗い出しました。

そのうえで「藤本昭子先生に伝えられた九州系の『夕顔（菊岡検校作曲 八重崎検校箏手付）』」の参考資料「楽譜」が藤本昭子先生により作成されました。さらに課題を

効率的に教示するためのビデオ動画も制作されました。

講習は7月18日と9月19日に実施。また、録画配信も3回行い延べ108人が受講しました。

従来の講習会では演奏者の手元が見辛いこともありましたが、遠隔講習では三味線の扱い方、尺八の吹奏技法が、目近で見てとれます。また、事前に受け付けた質問に答えることで受講生の要望にも、よりそった解説がなされました。

田辺市での前日講習では、遠隔講習を発展させた合奏練習が行われ、当日の舞台でその成果が披露されました。（T）



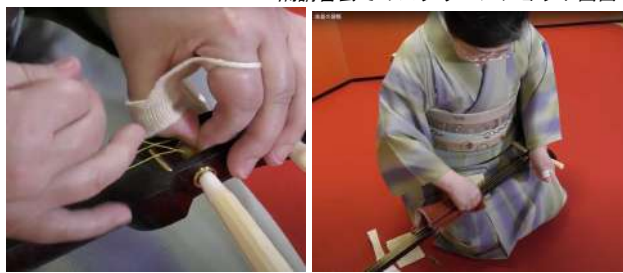
▲遠隔講習のスクリーンショット画面 受講者名は一部加工



▲遠隔講習での模範三曲合奏動画。遠隔講習会でのスクリーンショット画面



▲11月7日、「夕顔（菊岡検校作曲 八重崎検校箏手付）」=田辺市紀南文化センター大ホール 中央の三弦は藤本昭子先生（黒地の着物）



▲VTR動画の事前撮影で細部を詳細に見せることも可能

「邦楽 Music Aid『光咲む刻』を演奏する会」のこと

「邦楽Music Aid」は東日本大震災の直後、関西一円の邦楽演奏家、愛好家たちによって立ち上げられた復興支援のためのチャリティーコンサートです。

この「光咲む刻（ひかりえむとき）」は第1回の開催のおり、主旨に賛同して下さった作曲家の高橋久美子さんが無償で作って下さった曲です。

以来「邦楽Music Aid」の演奏会はもとより、様々な演奏会でこの曲が演奏されてきました。特にこの全奏協の「全国邦楽合奏フェスティバル」では毎回エントリーされている曲でもあります。

この曲の素晴らしさは、もちろん楽曲の魅力もあるのですが毎回、全国から演奏者が集まってきて、東北のために心をひとつに演奏することにもあります。

今回は残念なことに初回からこの

曲を演奏し続け、この演奏会の礎であった二人のメンバー、すなわち、星田一山氏と竹村さつき氏を失っての演奏となりました。

わたしたちはこの曲を演奏する度に、東北に想いを寄せて、亡き人に想

いを馳せて、そして人とのつながりを大事に思っていくことでしょう。

また、次回、この曲をたくさんの人と一緒に演奏する日を楽しみにしています。

（「東日本大震災復興支援コンサート・邦楽Music Aid」実行委員・全奏協理事 名村茂代）



▲「邦楽 Music Aid『光咲む刻』を演奏する会」による「光咲む刻（高橋久美子作曲・指揮）」の演奏=11月7日 紀南文化センター大ホール

普化尺八発祥の地で、明暗流本曲 「虚鈴」を披露を！

和歌山県中南部には邦楽由来の伝承が少なからずあります。その中でも、由良町の興国寺は尺八発祥の地として尺八愛好家の間では知る人ぞ知る名刹です。

興国寺境内には、普化尺八道場「虚鈴（きょれい）庵」があります。ライブ前の11月3日には今回演奏を披露した法燈（ほつとう）会の会員が集まり、境内に尺八の音を響かせていたと、記者を案内した土産物店

の女将さんがその様子を話してくれました。

法燈会は1967年医師の寺田泰山を中心に尺八を研鑽する会として発足し、現在12名の会員が興国寺に伝わる「紀州鈴慕」「鷺峰獅子」「慧日恋慕」など10曲を伝承しているそうです。

帰りには、その土産物店で「金山寺味噌」と「手作り醤油」を購入。ここ興国寺は我が国の味噌と醤油の発祥の地としても有名です。（T）

贅沢な奏者での 尺八五重奏「輪-RIN-」を堪能

尺八スペシャルライブでは、当初海外からの演奏家を招き、地元和歌山県の方々にその演奏を聞いていただくことを予定していましたが、コロナ禍の影響で国内の奏者だけの出演となりました。各流派の尺八本曲が披露されたあと、翌日出演の尺八ゲストを加えた5人による「尺八五重奏『輪-RIN-』」（高橋久美子作曲＝2010年、邦楽グループ「達」委嘱）が披露されました。（写真）

野村峰山、水川寿也、善養寺恵介、辻本好美が一尺八寸管（D管）の各パートを、柿堺香が二尺三寸管（A管）を担当しました。5本の尺八が織りなす、ハーモニックに回転しながら進行する音の輪とその調和が聞きどころの曲です。

今年は五輪の年ということで、5人は五輪色の色違いの衣装で演奏しました。（敬称略＝T）



▲法燈会による明暗流本曲「虚鈴」の演奏 11月6日 紀南文化会館小ホールで

▶興国寺（境内にある法燈会の練習所「虚鈴庵」）＝二月五日 和歌山県由良町



文部科学大臣賞は河宮拓郎氏

2021年11月6日(土) 紀南文化センター小ホールにてアマチュア尺八演奏家によるコンクールが開催されました。実演部門13名、動画部門7名の全20名の本選参加者がその腕を競いました。

日本国内40名、海外から15名の応募がありました。日本国内13名、海外7名が予選を通過しました。コロナの流行を考慮して実演は日本国内からの予選通過者13名のみとし、海外予選通過者は動画審査としました。

・実演部門(国内在住者)

文部科学大臣賞

河宮拓郎(京都)

鹿の遠音(琴古流本曲)

和歌山県知事賞

平澤真悟(宮城)

ラスコーの壁画

(野村峰山作曲)

田辺市長賞

西村的龍山(神奈川)

ときわぎ(江戸信吾作曲)

・動画部門(海外在住者)

金賞 楊博文(北京市)

甲乙(山本邦山作曲)

銀賞 劉暢(河南省)

山越(古典本曲)

銅賞 姚伯漸(雲南省)

瀧落(古典本曲)

(T)



▲文部科学大臣賞を受賞する
河宮拓郎氏 11月6日 田辺
市紀南文化センター小ホール

◀【実演部門】文部科学大臣賞
河宮拓郎氏(中央) 知事賞 平
澤真悟氏(左) 田辺市長賞 西
村的龍山氏 11月6日 和歌山県
田辺市紀南文化センター小ホール



「国際尺八コンクールは参加しないの？」そんな声をかけていただいたことが切っ掛けでコンクール参加を決めた昨年の6月。コンクールには国内外55人が音源予選に参加し、課題曲『荒城の月』と自由曲を演奏した音源を送り、うち20人が本選に進み、観客の前で自由曲を披露・審査が行われました。宮城県出身である土井晩翠作詞の『荒城の

2021 国際尺八コンクール 入賞の喜び

月』が課題曲だったのもきつと何かの縁に違いありません。

自由曲に選んだのは野村峰山先生作曲の『ラスコーの壁画』。この曲は学生時代からずっと好きで吹き続けていた曲でした(まさか作曲者ご本人の前で演奏することになるとは、当時の自分は思いもしなかったでしょう)。

そんな学生時代からの熱意が通じたのか、ベテランの演奏者が大多数を占める中、コンクール初挑戦にして20代で唯一の入賞を果たすことができました。東北大学に入学してから初めて和楽器に触

れ、このように尺八を続けることができ、周囲の方々には感謝しかありません。師である大友懂山先生をはじめ、邦楽部時代からずっとお世話になっている先生方に心より感謝申し上げます。

私は今後も仙台、宮城、東北を中心に尺八の演奏を続け、和楽器の魅力をもっと多くの人に広めていきたいと思います。コロナが収束し、皆さまが仙台にいらっしゃるときはぜひ一声お声がけください。美味しいお店を用意して待ってます！

(平澤真悟)

第9回全奏協邦楽コンクール 2023 年開催予定

第9回全奏協邦楽コンクールは、コロナウイルスの流行で2020、2021年は中止となりましたが、2022(令和4)年も流行が収まらず、中止とし、2023(令和5)年夏に開催を予定しています。

演奏家にとってより魅力的なコンクールにするべく準備をしております。どうぞご期待ください。

実施時期: 2023年度中(予定) 会場: 未定

開催要項等のチラシの配布時期: 2023(令和5)年1月(予定)

ホームページ掲載時期: 2023(令和5)年1月(予定)

2021国際尺八コンクールin田辺審査員

【実演部門審査員】

柿塚 香(尺八演奏家) 倉橋容堂(尺八演奏家)
善養寺恵介(尺八演奏家) 田中隆文(邦楽ジャーナル編集長)
野村峰山(尺八演奏家) の各氏(五十音順)

【予選及び動画部門審査員】

実演部門審査員 柿塚、善養寺、田中、野村の各氏に加え
キク・デイ(尺八演奏家)
クリストファー・遙盟(尺八演奏家・東洋音楽研究家)
デビッド・勘助・ウィラー(尺八演奏家)
ライリ・リー(尺八演奏家)の各氏(五十音順)

新理事紹介

本年度から新しく理事に就任した二人からのご挨拶を掲載します。任期は2年です。よろしくお願いいたします。



新理事 関野由美子

この度、僭越ながら、全奏協の理事を拝命しました。関野由美子です。どうぞよろしくお願いいたします。杜の都、宮城県仙台市…と言いたいところです

合奏の楽しさを伝えたい

が、仙台市より南へ20kmほどの岩沼市に在住しています。岩沼市は仙台空港や日本三大稲荷の竹駒神社、松尾芭蕉が「奥の細道」で詠んだ二木の松などがある長閑な街です。

お箏の道は4歳からで、年数だけは超ベテラン！ 様々な方とのご縁を紡いで、仙台で「杜に吹く風」という邦楽アンサンブルも主宰しながら日々活動しています。

全奏協主催の全国邦楽合奏フェスティバルに続けて参加したことで、その魅力に引き付けられ、全国から集まる皆様が本当はふつふつと熱い思いを抱いていることを毎回実感しました。

全奏協は発足より、子供や学生たちへの邦楽普及に大変力を注いできていると思います。理事長始め全理事の共有した思いが、10年の道のりで重要な活動に繋がっていることに感動します。

未来を担う子供や若い方達に、この熱い思いと合奏する楽しさ、美しい日本の一音を、ずっと継続して伝えていけるよう、全奏協のメンバーとして私も微力ながら心を込めていきたいと思っています。



新理事 中川雅玲

この度、全奏協の新理事となりました中川雅玲と申します。藤本玲理事長にお会いしたのはもう10年も前、全奏協発足の時でした。理事長は今と変わらず邦楽に

邦楽の魅力を世界に発信

対してものすごく熱い思いを持っていらっしゃいました。その頃の私はちょうど組織の中だけにとらわれず横のつながり、外の世界を覗いてみたいと思っていた時もありました。そんな時に理事長からの熱いラブコール、まるで昨日のこのように覚えております。まずは全奏協主催の全国邦楽合奏コンサートに出ることから始まり少しずつ、違った流派、会派の方とも交流できるようになりました。これからの邦楽にとって、特に若い方に積極的に邦楽を演奏する機会、広めていく機会を作るのにこの全奏協は大きな役割を果たしていくものと思います。

私は生田流正派邦楽会に所属し、埼玉の南浦和にて、箏・三弦教室をしております。英語でのレッスンも可能なため、多くの外国人門下生もおります。外国人にとって、邦楽は本当に魅力的なようです。この素晴らしい音楽・伝統楽器を世界にも発信し、そして全国に多くの全奏協会員が増えるよう、微力ながらお手伝いしていけたらと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

理事長ごあいさつ



皆さま、厳しい冬も明けて暖かなさくらの季節となりました。お元気ででしょうか！

昨年度は恒例の全奏協「邦楽コンク

理事長 藤本 玲

ール」が2年続きで中止となりましたが、Zoomによるリモート講習会を初めて開催致しました。藤本昭子先生、善養寺恵介先生、渡部明子先生をお迎えしての「夕顔」講習会は大変好評でした。11月和歌山県田辺市での国文祭「全国邦楽合奏フェスティバル」と「国際尺八コンクール」は奇跡的に開催でき、本当に良かったです。田辺市実行委員会の皆様には、大変よくして頂き、ご参加の皆様へのお礼と共に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

さて、今年は全奏協の創立10周年に当たります。今後も持続可能な形でできることを考えコロナに打ち勝って、次のステップを歩きたいと思っています。

最後に、邦楽ジャーナル3月号に紹介されたウクライナのセルゲイさんの記事を是非ご覧ください。戦いの合間に、銃を横に置き「荒城の月」を吹かれている動画です(↓QRコード)。一刻も早い終戦を祈ります。



<https://youtu.be/vt2fRo4rdac>

編集後記

全奏協通信の編集集中、プーチン・ロシアのウクライナ侵略のニュースが飛び込んできました。彼の目論見は帝政ロシア時代の覇権主義への回帰だと言われる。

一方で、広島、長崎の戦災国では、それに乗じてシェアと言う名の核武装論、先制攻撃という名の軍事侵略論を唱える輩が出てくる。戦争は外交の敗北とも言われ、文化とは対極に位置する行為だ。海外との文化交流、演奏交流こそ外交力を強化し戦争を防ぐと筆者は信じる。(T=広報担当 高橋哲也)



お世話になりました

▲「第36回国文化祭・わかやま2021」邦楽部門のスタッフと関係者 11.7田辺市紀南文化センターロビー

全奏協通信

NPO法人全国邦楽合奏協会(全奏協)

2022(令和4)年3月31日発行

<http://zensokyo.org>

〒770-0856
徳島県徳島市中洲町1-50-2
全奏協本部事務所
TEL 088-661-7621

第11号